

令和 7 年度 学 習 の 手 引 き

教科名	商業	年次	3学年	使用教材	[教科書]ソフトウェア活用
科目名	ソフトウェア活用	選択			[問題集]日検表計算1級
		単位	2		[ノート]ChromeBookにてドキュメントで入力

科目の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。

学習方法

情報処理の復習から行います。

ソフトウェアの活用とともに、情報リテラシー・情報モラルを学びます。

学習到達の目標として、検定試験にも挑戦します。

10月、12月。受験は必須ではなく推奨ですが、学習は行います。

評価の観点

次の観点に基づき、単元または内容のまとまりごとに評価を行います。前期末にはそれらを総括して評価を行います。学年末は1年間を総括して評価を出します。

評価の観点		評価の観点の趣旨
①	知識・技能	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
②	思考・判断・表現	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養っている。
③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養っている。

評価方法

評価方法\観点	①	②	③	備 考
学習状況の観察			◎	学習状況、学習意欲など
単元テスト	◎	○		単元テストにおける到達度
ノート			○	ChromeBookにて作成
実技テスト		○		表計算作成
検定試験に対する姿勢			○	受験は推奨

◎特に重視する点

評価への総括

評語			評価	評定
A	A	A	10 / 9	5
A	A	B	8	4
A	B	B	7	
A	A	C		
A	B	C	6 / 5	3
B	B	B		
B	B	C	4 / 3	2
A	C	C		
B	C	C	2 / 1	1
C	C	C		

内容のまとめりごとの評価規準

科目名:ソフトウェア活用

	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	内容のまとめり				
1	企業活動とソフトウェアの活用		企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ソフトウェアを活用することの意義と課題について、企業活動の改善と関連付けて見だしている。	ノートの取り組み具合。 グループワークの取り組み具合。
2	表計算ソフトウェアの活用		表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、表計算ソフトウェアを活用して、情報を集計・分析するとともに、その結果を表現し、評価・改善すること。	実技への取り組み具合。 検定試験への取り組み具合。

年間学習計画

教科(商業)学年(3) 目(ソフトウェア活用)
履修形態(選択) 単位(2)

学期	時	単元名 (内容のまとめ)	教材 題材	主な学習内容	育成する 資質・能力	主な評価方法	評価の 観点		
							①	②	③
前期	15 h	企業活動とソフトウェアの活用	教科書 ChromeBook	ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	・学ぶ力 ・思考力 ・自己指導力	学習状況の観察			○
						単元テスト	○	○	
						ノート			○
後期	45 h	表計算ソフトウェアの活用	教科書 問題集	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 表計算ソフトウェアの実務的利用	・発見力 ・判断力 ・コミュニケーション力	学習状況の観察			○
						単元テスト	○		
						実技テスト		○	
						検定試験に対する姿勢			○

単元の計画

教科名		商業	対象学年・生徒	3学年 選択	育成する 資質・能力	・学ぶ力 ・思考力 ・自己指導力
科目名		ソフトウェア活用	教材 題材	教科書		
単位数		2		ChromeBook		
単元名		企業活動とソフトウェアの活用				
内容のまとめり						
単元の目標		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	ソフトウェアを活用することの意義と課題について、企業活動の改善と関連付けて見いだす。		ノートの作成や授業に主体的に取り組む。	
単元の学習内容		ビジネスにおけるソフトウェアの活用				
		ビジネスにおけるソフトウェアの進化				
単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ソフトウェアを活用することの意義と課題について、企業活動の改善と関連付けて見いだしている。		ノートの取り組み具合。 グループワークの取り組み具合。	
主な 評価 方法	学習状況の観察				○	
	単元テスト	○	○			
	ノート				○	
配当時間		15時間				
補足等						

単元の計画

教科名		商業	対象学年・生徒	3学年 選択	育成する 資質・能力	・発見力 ・判断力 ・コミュニケーション力
科目名		ソフトウェア活用	教材 題材	教科書 問題集		
単位数		2				
単元名		表計算ソフトウェアの活用				
内容のまとめり						
単元の目標		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付ける。	企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，表計算ソフトウェアを活用して，情報を集計・分析するとともに，その結果を表現し，評価・改善する。		実技や検定試験に主体的に取り組む。	
単元の学習内容		表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析				
		表計算ソフトウェアの実務的利用				
単元の評価規準		知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，表計算ソフトウェアを活用して，情報を集計・分析するとともに，その結果を表現し，評価・改善すること。		実技への取り組み具合。 検定試験への取り組み具合。	
主な評価方法	学習状況の観察				○	
	単元テスト	○				
	実技テスト		○			
	検定試験に対する姿勢				○	
配当時間		45時間				
補足等						